

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 自主・自律の精神を涵養し、創造的な思考力を持った人間を育成する。 2 自他を敬愛し、協調性に富み、責任を重んじ、規律正しい人間を育成する。 3 勤労意欲と実行力を持つ人間を育成する。 4 健康保持の習慣を養い、心身ともに健全な人間を育成する。	学校整理番号	3
(2) 現状と課題	本校は知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成を目指すとともに、生徒・保護者・地域から「生徒を伸ばす進学校」として、信頼される学校づくりを推進している。そのためには、「進学重視の単位制高校」の特長を生かした教育体制を確立し、基本的な生活習慣を身に付けさせ、自分で決めたことに全力で取り組み、自己決定ができる生徒を育成する必要がある。	学校名	青森県立青森東高等学校
(3) 重点目標	1 学習指導 新学習指導要領に対応した教育課程の推進及び評価の改善 2 生徒指導 学校全体で対応する体制を基盤とした生徒の指導・支援の確立 3 進路指導 将来を見通した生き方や進路を考えさせるキャリア教育の実践	全日制の課程	校舎
(4) 結果の公表	学校ホームページでの公表	自己評価実施日	令和4年2月16日(水)
		学校関係者評価実施日	令和4年2月24日(木)
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
		元保護者保護者・同窓会の代表及び学識経験者等6名	

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	新学習指導要領に対応した教育課程を推進し、学習評価の改善に努める。	・育てたい資質・能力を明確にし、学校ランドデザインを作成する。 ・新学習指導要領に則した学習評価のあり方を検討する。 ・GIGAスクール構想に対応した学習環境の整備とICTの活用推進に取り組む。 ・統合型校務支援システムの運用について研究する。	・学校ランドデザインの校内に関わる部分について、概ね完成させることができた。 ・各教科の観点別評価について、概ね考え方をまとめることができた。 ・来年度に向けて、試行的に教育活動の中でICT機器を使う教員が徐々に増えてきた。 ・システムの運用や具体的な使い方までには至らなかった。	B	・教務関係の学校行事で、コロナ禍ではあったが、ほぼすべての行事を実施できたことは学校全体の取り組みとして良かったと思う。	・今年度完成させた学校ランドデザインは、教員だけの目線で考えたものであり、地域等の意見が反映されていない。次年度は、地域等の意見も組み入れたものを作成する。 ・A, B, Cで評価する方法について、試行・検討が必要である。 ・各教科の学習内容に合わせた活用方法の検討が必要である。 ・使い方の研修が必要である。
2	学校全体で対応する体制を基盤とした生徒の指導・支援ができるよう体制の確立に取り組む。	・日頃より生徒観察と教員間の情報共有をしっかりと行い、生徒支援に生かす。 ・道徳について考えさせるような教育活動を実践する。 ・特別な支援が必要な生徒に対してきめ細かな支援を行う。	・週1回行われる運営委員会、年次会議、分掌会議等で気になる生徒等について情報共有を図り、必要に応じて特別支援指導員と協力して支援を行った。 ・ホームルーム活動で、道徳的な内容について考えさせるよう実施した。 ・特別支援指導員の指導・支援のもとで、計画的に対象生徒に対して実施できた。	B	・部活動について、コロナ禍にもかかわらずよく頑張っていると思う。ただ、残念なことはいじめ問題であり、よりきめの細かいサポート(カウンセリング)等の体制づくりも必要だと思う。	・道徳的な内容を扱ったホームルーム活動について、学年のよって実施回数にバラツキがあった。次年度は年間計画に学年共通のテーマを2~3回入れて実施する。 ・特別支援指導員だけの協力では、難しい内容のものがあり、外部機関等の活用も必要である。
3	将来を見通した生き方を考えさせ、進路目標が立てられるようキャリア教育の実践に取り組む。	・進路意識を持たせるために行事や体験活動の計画・実施に取り組む。 ・図書館等の活用を促進することによって学ぶ意欲の育成を図る。 ・進路志望を達成させるために、計画的な指導体制とその方法を構築する。	・コロナ禍により、計画通りにできなかった活動もあるが、できる範囲で実施することができた。 ・図書館の環境整備により、利用する生徒が昨年度よりも増えた。 ・難関大学志望者に対して計画的な指導には至らなかった。	B	・これからも緻密な進路指導で生徒をサポートしてもらいたい。 ・大学の選抜方法が総合型・学校推薦型選抜ともに希望者が増加傾向にあるが、保護者にもわかりやすく説明してもらいたい。	・実施できなかった行事や体験活動について、従来の実施方法を見直し、コロナ禍でも対応できるような内容を検討していく。 ・難関大指導については、3年間を見通して指導・支援内容を検討し、早期に年間計画を立て、実施する。

(11) 総括 全体を通して委員の方から、学校運営に関してコロナ禍という厳しい状況ではあったが、取り組んできたことに対しては肯定的な言葉をいただいた。今年度も昨年度に引き継ぎ、様々な変化への対応が求められる一年だったが、今年度の教育活動が、逆境に立ち向かえる力になってほしいと考える。来年度は、今年度の反省点を踏まえて生徒にとって何が最もよい選択なのかを念頭に置きながら学校運営に取り組んでいきたい。